

同窓会 各地区のたより

関東同窓会

「つながるれきしとみらい」、横浜で

吉田典之（高36回生）

日時： 2024年6月15日(土) 14:00～総会 14:30～懇親会
会場： ホテル ザ・ノット ヨコハマ Hotel The Knot Yokohama

関東同窓会として初めての東京以外での開催となる第37回清水東高関東同窓会の総会・懇親会が6月15日、横浜市西区のホテル ザ・ノット ヨコハマで開かれました。式のデザインも統一感ある洗練されたものになり、横浜らしい瀟灑な雰囲気のととなりました。

今回の参加者数は約150人、清水からもバス1台に乗って駆け付けてくれました。総会では、決算報告、新しい役員の選任について承認され、総会は円滑に終わりました。



司会

懇親会は、杉本信策関東同窓会長、中澤通訓同窓会長、井島秀樹校長の挨拶に続き、高69回生の大橋陽海さんと小倉幸樹さんによる乾杯で幕を開けました。司会は担当幹事年高39回生の野川(旧姓・重田)文緒さんと柴切重行さんが務めました。柴切さんは今回のポスターのデザインをはじめ、当日配布のパンフレットの表紙、総会で使うスライドの意匠も手掛けてくれました。

歓談の時間では、昨年10月に開かれた、清水東高創立100周年記念式典



幹事代表挨拶

の様子がビデオ上映されたり、大抽選会では協賛していただいた10社からの多数の協賛品が賞品として提供されたりと熱気は最高潮に達しました。最後に高39回生の代表友井(旧姓・千葉)美有紀さんが来年の幹事高40回生の日比龍介さんに来年を託し、恒例の校歌斉唱とエールに声を上げて盛会の中お開きになりました。



パンフとジャーナル

連絡先 清水東高関東同窓会 中川事務局長
mail : kiyokoukantou@gmail.com



北海道支部

北海道で、我が青春の血ぞをどる 北村 清彦（高26回生）

Jリーグ創設の頃、エスパルスが北海道でキャンプしたことを機に北海道支部が設立されたそうです。その後、遠く故郷を離れてやって来た新人生を迎えてのジンギスカンパーティーが慣例でしたが、近年は秋に同窓会を開催しています。2023年はコロナ5類移行後、4年ぶりの懇親会が実現し、寺島校長先生にご臨席賜り、13名で楽しい時間を過ごしました。寺島先生からは創立100周年を迎えた東高の生徒の活躍や新校舎活用のことなど、卒業生として誇らしいお話をたくさんお聞きしました。もちろん最後は声高々に校歌斉唱です。(私事で恐縮ですが、私の学年はこの3月で卒業してちょうど半世紀がたちました。オーイ、みんな元気か。今こそ我が第2の青春の血をおどらせる時ぞ!) さて一昨年はエスパルス対コンサドーレ戦を同窓会で観戦し、J2降格の憂き目に遭いましたが、この記事が皆さんの手元に届く頃にはJ1昇格の歓喜に包まれていると確信しています。けれどもエスパルスの札幌遠征はあるのだろうか。(北海道支部会員だった)野々村チェアマン殿、ピンチですよ!

2024年度 北海道支部同窓会 開催要領

日時：2024年10月26日(土)
午後6時～午後8時
会場：真狩村金丸農園直営 野菜居酒屋
ルンゴカーニバル 札幌駅北口店
札幌市北区北七条西4丁目第5道通ビル 1F
URL: www.kanamaru-farm.com/lungocarnival
会費：学生1000-2000円・
学生以外6000-10000円程度
(人数により変動します)

連絡先 北海道支部事務局 宮坂瑞穂(高43回生)
FAX: 011-231-0058
mail : hiro.miyasaka@nifty.com

盛り上がる参加者



！ 生徒の知らない話 あれこれ



勉強合宿 「専任」を務めて

昭和58年度卒業(高36回生理)
数学 男子ソフトテニス部、山岳部
勤務期間：平成12年4月～
平成24年3月勤務
令和6年4月～

山田 竜二

今回、勉強合宿について少しお話しします。勉強合宿には「専任」という役割がありました。講義を受け持つことなく、専ら合宿の裏方を務める役割です。

道志村勉強合宿の専任を赴任1年目の私が勤めました。専任の1日の役割は次のとおりです。会場となる校舎の開錠、講師の送迎、始業と終業を知らせる鐘を鳴らす時報係、午前の講義終了後の校舎施錠でした。そして、ここからは生徒諸君の知らない専任の仕事です。昼食後、村役場で村営テニスコートの使用許可を取り、先輩の先生方をテニスコート

に送り届け、夜の反省会のための買い出しに出掛けます。買い出しの品を宿舎に運び込み、再びテニスコートへ。迎えに行ったはずがテニスする羽目になったりもします。テニスを終えた先生方を宿舎に送り届けます。夕食後には点呼のために他の先生方と各宿舎を回ります。生徒には講師と専任の区別はありませんから、私にも質問を浴びせます。なんとか質問攻撃を躲して点呼を終え宿舎に戻る頃には教員宿舎で反省会が始まります。反省会は買い出しの品がなくなるまで続きます。先輩方との貴重な反省会を過ごし専任の1日の役割が終わります。

勉強合宿最終日、生徒教員協力して校舎を清掃し、補助黒板などの荷物をバスに積み込み、一路学校へ。皆を見送った後、すべての宿舎を回り支払いと御礼の挨拶を済ませ、最後に村役場に勉強合宿の終了と御礼を伝え、道志村を後にしました。学校に到着し、残りの荷物をすべて片付け、私の専任の仕事は終わりました。平成12年8月のことです。この年をもって道志村での勉強合宿は終了となりました。道志村勉強合宿の最後の専任を務めたのは私です。勉強合宿自体はこの後も小山町内の研修センターに場所を移し令和元年度まで続きましたが、この年をもって幕を下ろしました。時代のニーズに合わなくなったということでしょう。

青春交友録

生徒たちとともに過ごした 第二の青春 西野 宏治（高32回生）

まさか自分が卒業した母校の教員として15年間も生徒たちと一緒に過ごすことになるうとは…。

高校2年生の頃に出会った「エビネ(野生蘭)」の美しさに惹かれて工学部から農学部へ志望変更し、将来は「好きな実験を仕事にして、大好きなエビネの品種改良(新花作出)をして楽しむ」と決めて、高校教員になることなど1mmも考えていませんでした。

大学でできた友人に誘われて「資格は邪魔にはならない」と思って取得を決めた教員免許。必須なのが大学4年生の9月の母校での教育実習。7月に就職先が内定し、卒論研究がようやく軌道に乗り始め「それどころではない」中での実習は、最大の転機でした。「大変だけれど楽しくて仕方がない2週間」は社会人になっても消えずに私の心に残り、3年後の教員採用試験へと繋がりに至っています。

清水東への赴任が決まったのは、42歳の時。担任を6年間、学年主任を9年間務め、多くの同級生の娘息子を含む生徒たちと共に過ごした第二の青春は、本当に濃密な時間でした。生徒たちは日々の学習課題に苦しみながらも、部活動やクラス活動(学校祭・クラス参加)に青春を賭け、キラキラと輝く姿を見せてくれます。弓道部女子は全国準



2018年1月の学年同窓会(2016年3月に卒業した生徒たちが企画・開催してくれました)。前列右から2番目が私(筆者)です。

優勝、ハンドボール部は何度も県大会を制して全国大会。サッカー部は県大会制覇こそできませんでしたが何度も決勝戦やリーグ昇格戦に臨み、その度に心が燃え上がる試合を繰り広げてくれました。学校祭では開会式・閉会式ともに生徒が賛歌(オリジナル曲)をバンド演奏。理数科は毎年自主製作映画を上映し、普通科も趣向を凝らしたゲームや寸劇で来場者を楽しませるだけでなく、後夜祭ではダンスやバンド(教員バンドも暫くやっていました)で全員がうちわを振りながら熱狂!教員として冷静さを装うのは大変でした(笑)。

また、同窓会の校内幹事の一人として特に同窓会報の編集にも長く携わる事となり、多くの同窓生の方々と御縁を結ぶことができました。この場を借りて御礼申し上げます。